

ギラヴァンツの快進撃は基礎力の鍛え直しから

昨日、地元サッカーチームのギラヴァンツ北九州がカマタマーレ讃岐に4-0で勝ち、来シーズンのJ2昇格を決めました。フル出場の選手が試合終了まで当たり負けせずに走り切り、黄色のフラッグと応援のうねりは止むことがありませんでした。2018年の昨シーズンは17位と最下位でした。今シーズンの躍進は今年から指揮を執った小林伸二監督の指導の成果だと実感しています。着任そうそう成績低迷は基礎体力不足と見抜いた監督は、選手の心拍数などを計測する機器を導入し徹底的に走り込ませるなどフィジカル強化に取り組みました。選手たちには面白くないハードな練習が続きましたが、体脂肪率が練習とともに目に見えて下がり、息切れせずに1時間走れるようになったのです。体力に自信がついてくると試合の流れが見えるようになり、ボールへの執念がキープ率上昇という形になって表れてきました。相手チームとの体力差が勝利につながっていると確信できたのです。

大学における「学修の成果」も学ぶ学生の基礎力次第で格段に違ってきます。大学で学ぶ上での基礎力とは何でしょうか？ 私は、昔から言われている「読み書き算盤(そろばん)」が現代にも生きていていると思っています。すなわち文章を読むこと、内容を理解して文章を書くこと、そして計算できる能力を持っていることです。前回、文章力の重要性について触れました。今回は計算する力についてです。小林監督が選手たちをきちんと指導できたのは、根拠となる数字があったからです。一定の練習をして負荷をかけるごとに心拍数や血圧を測り記録させます。練習を続けると数値の上がり方が減り、疲れを感じなくなりフィジカルが強化されていくのをデータとともに実感できます。データというエビデンス(証拠)があったからこそ選手たちの能力も向上したのです。西日本工業大学で学ぶ皆さんには計算する能力、特にこれからはデータサイエンスは不可欠です。「算盤」に少し不安がある学生は、近くの数学の先生に一声かけてください、学びなおしの方法を伝授してくれるはずですよ。

「工学とデザインの融合」と産学連携協定



西日本工業大学にはデザイン学部があります。皆さんはデザインと聞いて何を思い浮かべますか。ポスターやホームページ、キャラクターなどの商業デザインですか？ それとも携帯電話や車などの工業デザインでしょうか？ はたまた、国立競技場や門司港レトロといった建築デザインでしょうか？ いずれも表現された色や形を思い浮かべると思いますが。一方、キャリアデザインや食のデザインといった言葉もあります。昨今は思いもよらないものもデザインと呼ばれています。11月29日、小倉キャンパスで「北九州デザインシンポジウム2019～今、あるものを結ぶデザインとは～」が開催され、特定非営利活動法人おてらおやつクラブ理事の福井さんと監事の桂さんからクラブの活動紹介がありました。この活動は、お寺へのさまざまなお供えを仏さまからのおさがりとして頂き、子どもを支援する団体と協力して、貧困な子どもたちにおすそ分けするもので「2018年グッドデザイン賞」の大賞を受賞しました。このようにデザインには多様性がありますが、共通しているのは、課題を解決する方法を「可視化」という点だと思います。

本学はこのデザインと技術を使って思いを「形」にする工学とを組み合わせれば新たなマーケットが生み出せると考え「工学とデザインとの融合」を掲げています。例えば、ネジチョコで話題の洋菓子屋「グランダジュール」さんと本学とはこれまでもお菓子の型づくりやパッケージデザインなどで協力してきましたが、本日新たに産学連携協定を結びました。新たな連携コンセプトはEmotional dessert「気持ちを揺さぶるお菓子」づくりです。グランダジュールさんの職人技に大学の知恵や技術を合わせて購入意欲をくすぐる新商品を開発しようというものです。その過程で「可視化」の基礎を学んだ学生がお菓子の企画開発やマーケティングを体験します。このような取り組みから本学が目指す「自ら考え行動する技術者」を育成したいと考えています。